

## 齋富南方地区ほ場整備事業に伴う発掘調査

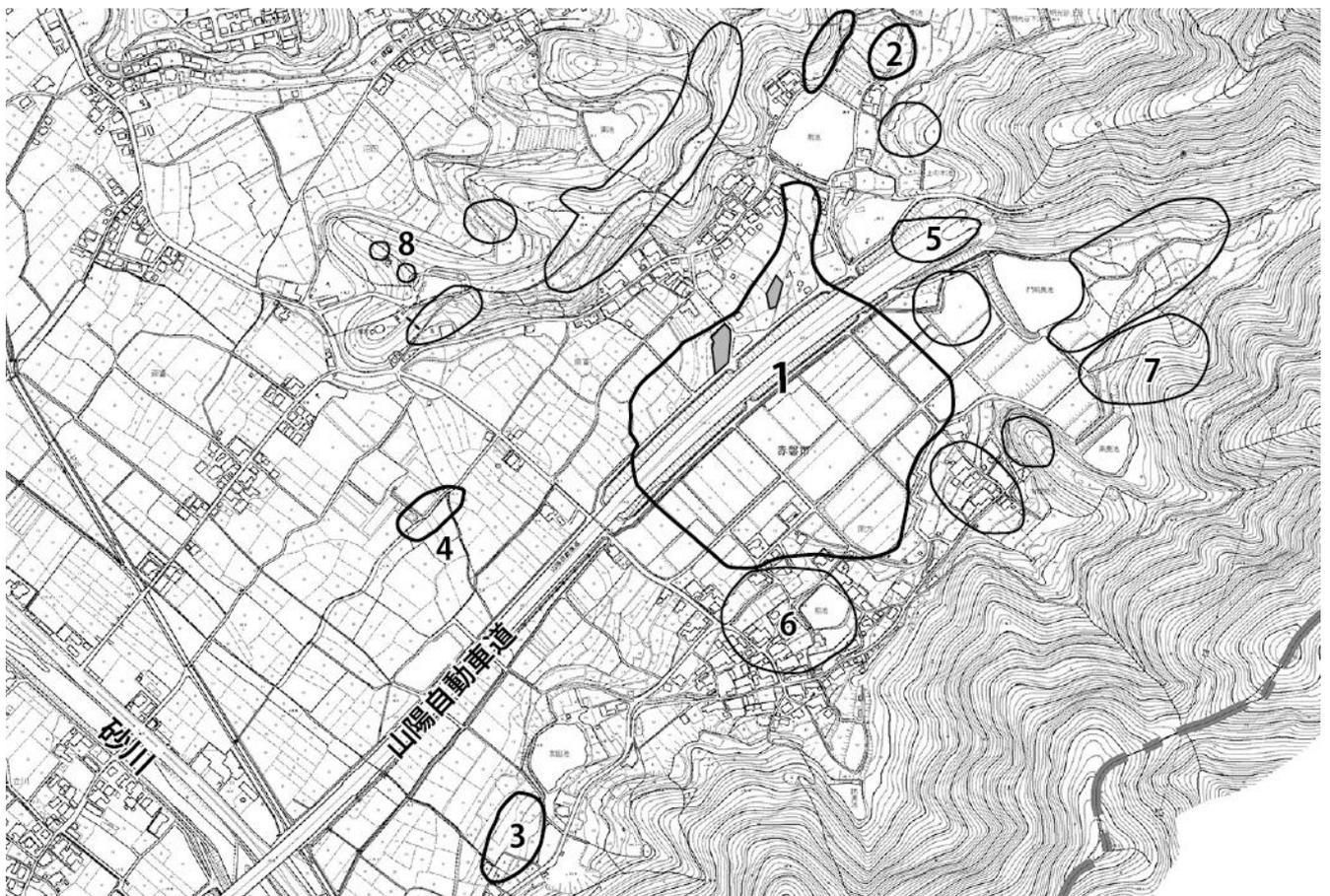
## 令和2年度齋富遺跡発掘調査現地説明会資料

## はじめに

赤磐市教育委員会では、岡山県備前県民局の委託を受け、令和元年度から齋富南方地区ほ場整備事業に伴う齋富遺跡の発掘調査を実施しています。今年度は、その2か年目となります。

齋富遺跡は、平成3・4年度に山陽自動車道の建設に伴い、20,000 m<sup>2</sup>以上の広大な面積が発掘調査されました。なだらかな傾斜地上に展開する遺跡からは、縄文時代から弥生・古墳・奈良、さらに中・近世までの多くの遺構・遺物が検出されました。

特に、集落規模が拡大する古墳時代後半期の住居跡・<sup>ほうがんそう</sup>包含層からは朝鮮半島に関する遺物が出土し、この地域が朝鮮半島との交渉を通じて密接な関係を築いていたことが想定されています。<sup>なんしつ</sup>軟質（系）土器、<sup>とうしつ</sup>陶質（系）土器、<sup>そろぼんだまがたどせいぼうすいしや</sup>算盤玉形土製紡錘車などが朝鮮半島とのつながりを示し、<sup>とらいじん</sup>渡来人との強い関わり



- 1 齋富遺跡 2 中池南遺跡 3 友田遺跡 4 馬渡遺跡 5 齋富古墳群 6 南方前池遺跡  
7 南奥池古墳群 8 雨壺古墳群

■：今回調査区

図1 齋富遺跡と周辺の遺跡・埋蔵文化財包蔵地（1/10,000）

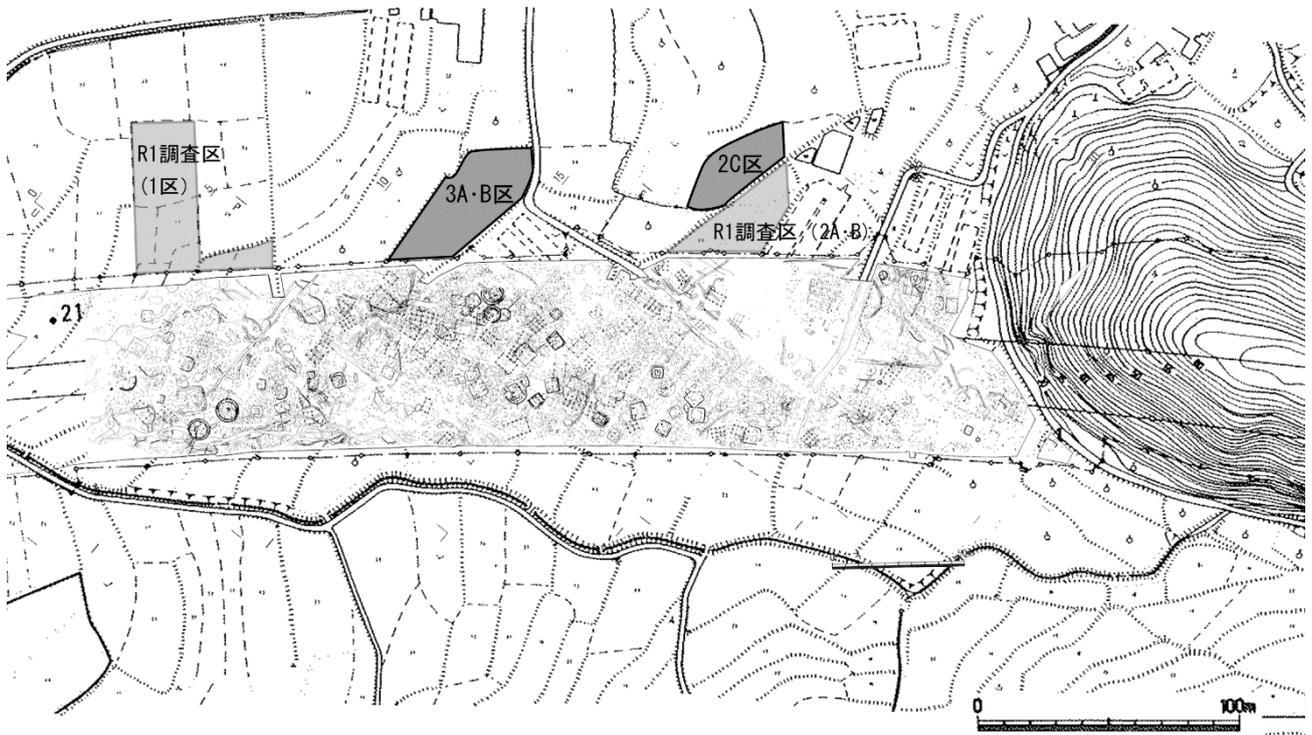


図2 山陽自動車道建設時の斎富遺跡と今回調査区の位置関係

が考えられる集落として知られています。付近には、縄文時代晩期の貯蔵穴が見つかり、同期の標識土器「前池式」を出土した南方前池遺跡（県史跡）があります。

このたびは、山陽自動車道に隣接する地点で発掘調査を行っています。令和元年度には、1区・2A・B区を調査し、1区の遺跡北西隅にあたる地点では縄文時代晩期の河道やたわみ、古代と考えられる道路状遺構が見つかりました。また、2B区では古代に属すと考えられる2×3間を中心とした掘立柱建物が5棟以上検出されました。

### 今年度の調査の成果

発掘調査は10月から開始しました。現在も実施中ですが、これまでに分かったことをお伝えしたいと思います。今年度の調査区は東の2C区と西の3A・B区に分かれています。

#### 2C区

昨年度2B区の続きで、古代に属すと考えられる2×2間や2×3間などの掘立柱建物を複数確認しています。うち1棟は、底をもつ建物のように見えます。規模がそれほど大きくないため、一般的な住居と考えられます。

#### 3A区

溝2条および弥生時代後期前半と考えられる竪穴住居を検出しました。竪穴住居は円形で同じ場所に建替を行っています。支柱穴は4本で、弥生土器や石包丁が出土しました。

#### 3B区

古墳時代の住居を検出し、1棟にはカマドが付属しています。須恵器や土師器が多く出土しています。

## おわりに

今回の調査により、弥生時代や古代の斎富集落の生活の様子が明らかになってきました。来年度以降も調査を継続しますので、今後ともよろしくお願ひします。

最後に、調査にご協力いただきました地元及び関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

【図出典】 下澤公明編 1996『斎富遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 105 岡山県教育委員会

### 赤磐市教育委員会 社会教育課

〒709-0816 赤磐市下市 337 (山陽郷土資料館内) 電話：086-955-0710 FAX：086-955-0758  
調査中であり、内容が変わることもありますので、本資料の引用・転載はお控えください。

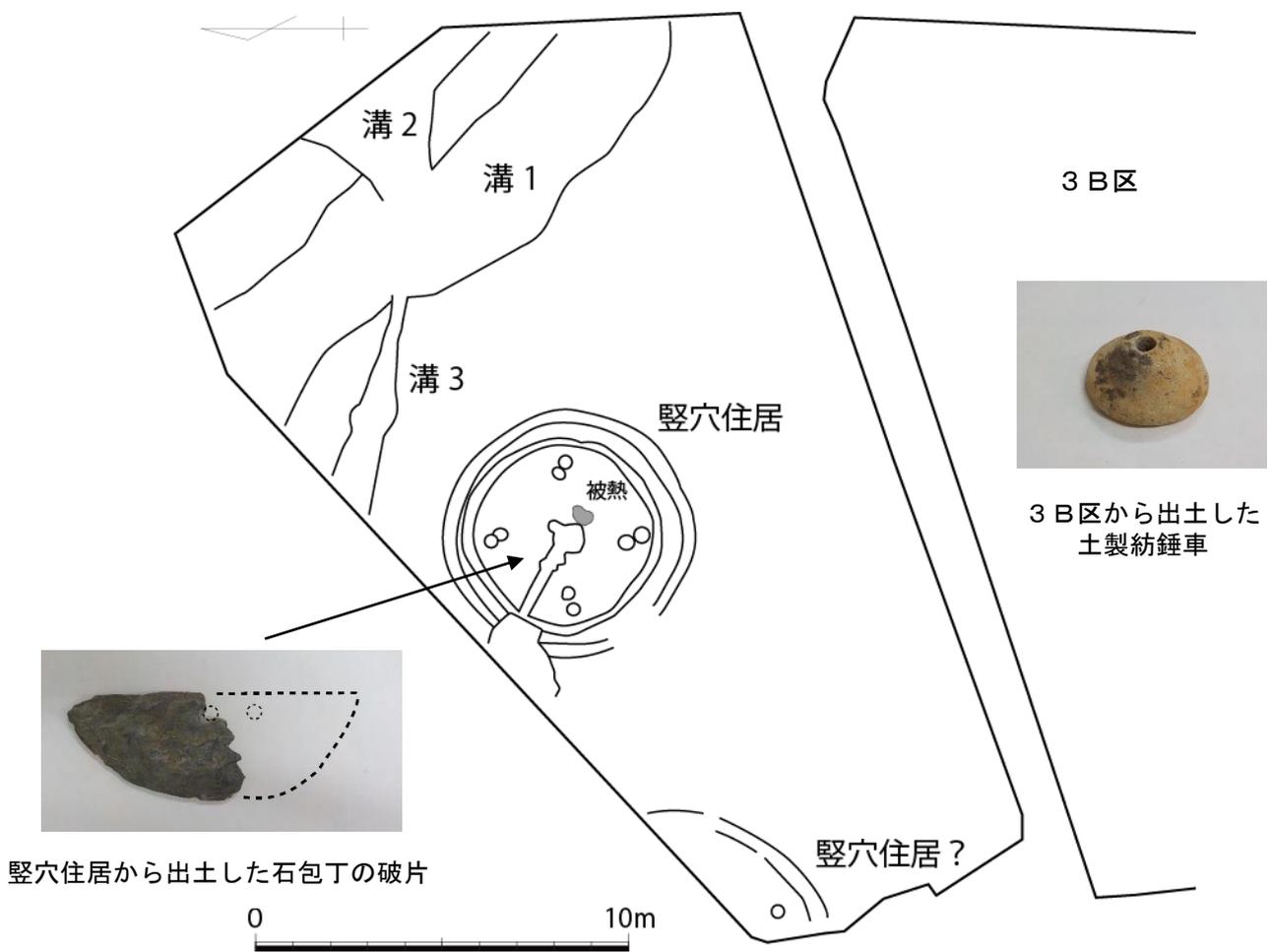
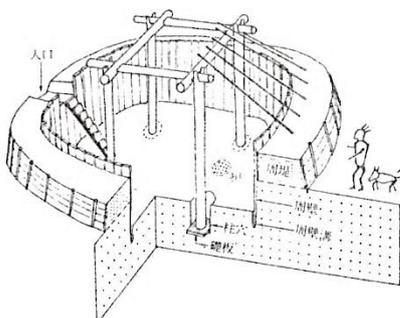


図3 3A区 遺構配置 (1/200)



### 竪穴住居の模式

出典：都出比呂志 1975「竪穴式住居の周堤と壁体」『考古学研究』22-2  
考古学研究会

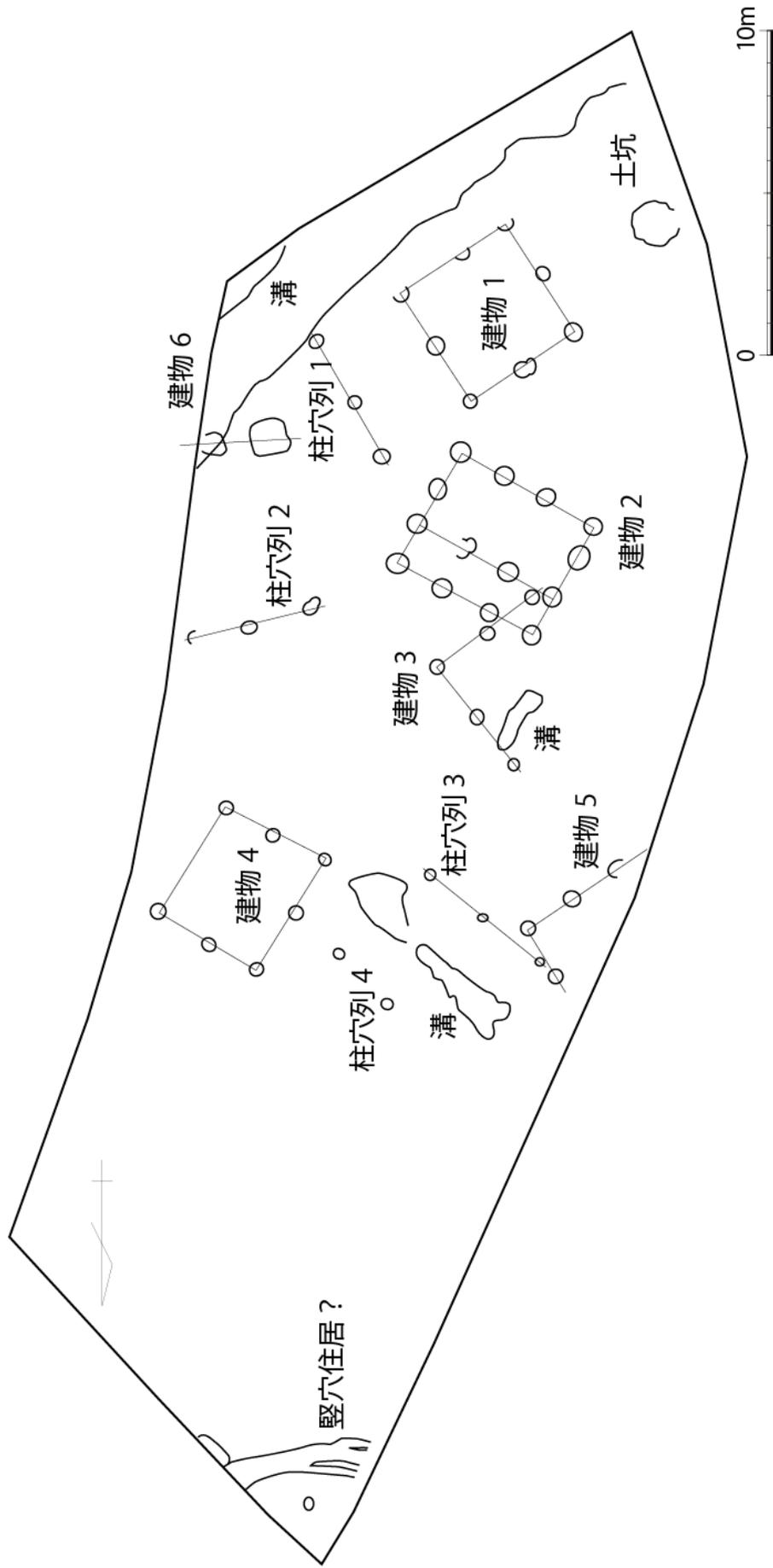


图 4 2C区 遺構配置 (1/200)